



# 丸小だより

令和元年 11 月 28 日 (木) No. 8

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

～ 実践目標 自分が輝く みんなも輝く ～

## 体験から学ぶ意義

校長 新井 篤志

秋らしい陽気になってきたかと思っていたら、朝晩の冷え込みが始まりいつの間にか冬が近づいているのを感じます。秋があっという間に過ぎ去り、秋の季節が今までよりも短くなってきたようです。それでも秋は、読書の秋・スポーツの秋・芸術の秋・食欲の秋などと言われるように、人々が様々な活動に取り組むにはとても良い季節であることには変わりはありません。

その中で、芸術の秋ということで6年生のこころの劇場鑑賞や狂言教室、4年生の今年度から始まったバレエ鑑賞は、子どもたちが本物に触れる体験の場としてとても貴重だと感じました。それぞれの道のプロフェッショナルとして取り組んでいる人たちの姿は、子どもたちの心に今までに味わったことのない感動があったことが、子どもたちの感想からもうかがえました。本物に出会う体験を学校教育の中で大切にしたいとあらためて感じました。

また、5・6年生が家庭科で調理実習に取り組みました。各自が自分の分担した食材を用意して友達と協力して調理しました。事前に先生から調理の実演を見て、作り方や分量を確認していましたが、いざ取り組んでみると使う食材を無駄なく使うことが難しいことに子どもたちは気付いていました。知識としてはあっても実際に体験してみるとなかなか思うようにはいかないことを、身をもって感じる事ができたようです。子どもたちは、丸小フェスタの発表に向けて、今世間でも注目されている食品ロスなどの問題について学習しています。具体的な取組方法は調べていると思います。しかし、実際にそれを実践するときに、なかなか思うようにはいかない現実をこの調理からも学べたと思います。体験を通して学んだことが、次の問題解決に向けていかされるとさらに学習は深まっていくことでしょう。

これからの学習では、知識を活用していくことができることこそ本当に知識が身に付いたと考えていきます。豊かな知識を身に付けていくためには、体験を通して学ぶことも大切にしていきたいです。

